



©ALBIREX NIIGATA

アルビレックス新潟の島田譲です。
僕は昨年より「燕市子育てサポーター」に
就任し、燕市が推進する子育て支援のPR
をお手伝いさせていただいています。
^{せんぎふ} 僭越ながら、こちらでコラムを書く機会を
いただきましたので、「燕市」について僕の
の想いを書いてみたいと思います。

アルビレックス新潟

島田 譲 選手

茨城県出身。ポジションはミッドフィールダー、
背番号20。日本女子プロサッカーリーグ（WE
リーグ）理事も務める。趣味は読書とコーヒー。

職人気質、頑固… そんな燕市のイメージを変えたもの

皆さんは、自分のまち「燕市」について、どのよう
なイメージを持っていますか？

言わずもがなですが、燕市といえば「ものづくりの
まち」「職人のまち」。そこから連想していた僕の勝手
な燕市に対するイメージは、「伝統や歴史を重んじる
保守的なまちなのかな」「職人気質で、無口で頑固な
人が多いのかな」という漠然としたイメージでした。

しかし、新潟に来て燕市と関わるようになってから、
僕の燕市に対するイメージは、大きく変わりました。
特にそのきっかけとなった3つのエピソードをこれか
ら紹介していきます。

1つ目は、新型コロナウイルス禍の2020年に目
にしたニュースです。

緊急事態宣言により帰省を自粛した燕市出身の学生
に対して、燕市からお米やマスクなどの応援物資をプ
レゼントしたというニュースでした。

故郷に帰りたくても帰れない学生たちからすれば、
応援物資はもちろん、故郷との繋がりを感じられたこ
とが、何よりうれしかったのではないのでしょうか。子
育てサポーター就任前でしたが、**燕市の心温まる取り
組みは、とても印象的でした。**

2つ目は、僕の家にある「メイドインツバメ」です。
もちろん子育てサポーターに就任してから頂いたり
購入したものもあるのですが、それ以前から燕市を意
識せずに購入していたり、ふるさと納税の返礼品とし
て頂いたものもあります。それらすべてに共通する特
徴は、無駄な機能や装飾が少なくシンプルであること、
主張が少なく飽きのこないデザイン、そして何より使
いやすさと丈夫さ、だと感じます。たくさん売ってや

ろうというよりも、使う人の側に立って、その使い心
地や使いやすさ、長く愛用できるものを作るんだ、と
いう職人の心意気が伝わってくるものばかりです。

そして最後の3つ目は、燕市役所の雰囲気です。
僕が燕市役所を訪問するたびに、鈴木市長をはじめ
め、そこで働く皆さんがいつも温かく

出迎えてくれて、笑顔で声をか
けてくれます。市役所とは思
えないアットホームな雰囲
気を感じます。子育て支援
をはじめ、新しいことに挑
戦する姿勢や、先に書いた
学生への心温まる取り組み
も、こんな素敵な職場だから
こそ生まれるのだと思います。

人と人をつなげる「思いやりのまち」

燕市と関わるようになって数年を経過した今、僕の
燕市に対するイメージは「思いやりのまち」です。

困っている人を助ける思いやり、子どもや子育てに
寄り添う思いやり、使う人のことを第一に考える職人
の思いやり、笑顔や温かい言葉から発する無意識の思
いやり。

現代社会では身の回りのことがどんどんデジタル
化していく中で、人と人をつなげる思いやりは、どん
どん希少価値の高いものになっています。

だからこそ、そんな思いやりが詰まったこの燕市
は、本当に素敵なまちだと思います。

そして、その思いやりの伝播によって、これからも
燕市がどんどん温かく住みやすいまちになることを
願っていますし、そこに少しでも貢献できるように、
僕もサポートを頑張ります！



燕市役所に訪問。実はこのジャケットの裏地、オレンジ色なんです▶